

Climb

クライム

川野小児医学奨学財団

2022年度 事業報告書



みんなでのりこえる。

A woman and a young boy are walking away from the camera on a gravel path in a park. The woman is wearing a white sweater with green horizontal stripes and blue jeans. The boy is wearing a yellow long-sleeved shirt and khaki pants. They are holding hands. The path is made of light-colored gravel and is bordered by green grass and some small plants. In the background, there are some trees and a building.

みんなでのりこえる。

川野小児医学奨学財団は、病気で息子を亡くした父親の
「病に苦しむ子どもを減らしたい」という思いからはじまりました。
1989年に設立され、30年以上にわたって、
小児医学の支援に取り組んでいます。

子どもの病気に関する研究への助成や、
小児科医を目指す医学生への奨学金給付、
小児医療施設のサポートなどに取り組むなかで感じてきたのは、
子どもをとりまく問題の解決には社会全体の力が必要だということです。
医学が進歩し、乳幼児の死亡率は減っていますが、
いまだ解明されない小児の難病の存在や
特別なケアが必要な子どもの増加など問題は尽きません。

さまざまな立場や役割の人たちといっしょに、
子どもたちが直面している問題を、みんなでのりこえる。
私たちは一歩ずつ、歩みをすすめてまいります。



interview

子どもの心の声に触れて見えてきたこと

ハナ（母） カズ（息子）

「周りを見回しても、私たちほどいい関係をつくれている親子はいないと思います」。カズ君（仮名）との関係を笑顔で話すハナさん（仮名）。

カズ君は現在高校生。友人たちからの信頼も厚く、何事にも熱心に取り組む「自慢の息子」だ。

しかし以前、ハナさんはカズ君が激しく暴れることに悩まされ続けていた。「この子に殺されるかもしれない」と怯え続ける毎日を過ごしていたのだ。

カズ君は幼いころから激しく暴れることがあった。例えば、保育園から帰る道が思っていたルートではないと大声で叫び、ハナさんを叩いたり蹴ったりする。

朝、目が覚めた時に横にハナさんがいないと、パニック状態になり、白目を剥きながら「もう一回夜に戻せ!」と叫び続ける。食事に嫌いなものが入っていたら、「こんなの食べられない」とお皿ごと投げる。小さなことが思い通りにならないと、家中のものをなぎ倒したり、水浸しにすることもあった。

殺人事件のニュースを見ると、人ごととは思えなかった。「私も寝ている間に殺されるんじゃないかって」。実際に包丁が出たこともあった。

困っていろいろなところに相談に行ったが、状況は改善されない。病院に通院して何種類かの薬も試したが、飲ませてでも変わらない。それまでで一番ひどく荒れた時に、すがる思いで電話をしたのが、「四国こどもとおとなの医療センター 児童心療内科」だった。

ここでは、暴れる子どもを「親と子の関係性」という側面から診療し、母親を対象とした治療プログラム（以下プログラム）を行っている。

ハナさんは本能的に、「このプログラムに挑戦したい」と思ったという。

プログラムを主催する牛田美幸医師が、最初の診察の際に言ったことで印象に残っていることがある。「普通の子どもは24時間のうちのほとんどをおだやかな気持ちで過ごしますが、うまくいっていない子どもは多くの時間を傷ついた嫌な気持ちで過ごしています。あなたも傷つくことがたくさんあった時、ささいなことにカッとなってしまうりませんか？それは子どもも一緒ですよ」。

この言葉はハナさんにスッと入ってきた。「もし周りから嫌なことを言われ続けて、毎日傷つくことがたくさんあったら、私だって子どもがコップの水をこぼしたくらいでどなりつけてしまうかもしれない」。そして同時に、こうも思った。「今まで、カズは生まれつきカッとなりやすいのだからどうしようもないと思っていたけれど、私が状況を変えることでカズも変わるのかもしれない」と。

プログラムの最初にやったのが、子どもとの印象的なやりとりを書くことだった。状況を文字にしてみると、気づきがたくさんあった。自分は被害者だと思って書く中にも、「私が余計なひと言を発しているな」と感じるものが多かったのだ。そして、何より大きかったのが、自分と子どもの気持ちが見えるようになってきたこと。「あの時ママ友に言われた言葉に私は傷ついてたんだとか、あの時カズは妹にやきもちを焼いていたんだとか」。

もう1つ、取り組んだのが「させるをやめる」だ。例えば、ハナさんは食べ物の好き嫌いは許さず、嫌いなものは好きなものの中に混ぜて食べさせていた。また、宿題や学校の準備は18時までに済ませることや、メディアは1日30分だけと決めていた。それ以上見ていると、カッとなって、テレビをバンと叩いたこともある。決めたことをきちんと守らせるのが親としての当然の責任だと思っていたからだ。

しかし、牛田医師から「それはやめよう」と言われた。「いったん親がやれと言うと、子どもがそれをやらなかった時に腹が立つ。引っ込みがつかなくなって、ますます強く叱責することになり、最後にはどなりつけることにもつながってしまうから」と。

正直、最初は「今これだけ言ってもよくならないのに、

私が何も言わなくなったら、事態は余計に悪くなるんじゃないか。子どもが墮落して何もしなくなるのではないか、えらそうな態度をとられるのではないか」と心配だったと振り返るハナさん。それでも恐る恐る「させるをやめる」を始めたのは、あまりに日常が大変だったのもうやるしかなかったからだ。

小言や叱責のない生活を始めてしばらくすると、カズ君に変化があらわれた。暴れることがぐっと減ったのである。いつもだったら癇癪^{かんしゃく}を起こしていたことにも癇癪を起さなくなった。墮落したり、えらそうになるなど、「恐れていたこと」は何も起こらなかった。

さらに、大きな変化が見えた出来事があった。ある日、学校から帰ってくるなり、カズ君が「友達を殴ってしまった」と話し始めたのだ。これまでであれば、「どうしてそんなことを!」と問い詰めていたに違いなかったが、プログラムで教わったように、質問せずに子どもが言いたいことを聴いてみようと思いを傾けた。そうすると、「僕が悪かったのかな」「謝りたいから友達のところに連れて行ってほしい」などと口にし始める。そして「僕、どうしてこんなことしちゃうんだろう…」と悲しそうに言ってきたのだ。

「びっくりしました。今までカズは自分の非を認めたことがなかったので…。この子は善悪の判断がつかない子だから、やってはいけないことや謝ることを教えなきゃと強く思っていたのに、ちゃんと知っていたんだなって。もしかしたら、この子は良い子なのかもしれないと思いましたね」。



それから、ただただカズ君の話を聴くことを心掛けたハナさん。すると少しずつ、カズ君は手を出すのではなく、言葉で自分の気持ちを伝えてくれるようになった。やがて癇癇を起こしたり、暴れる姿が想像できないくらい落ち着き始める。半年が経った頃には、「もう大丈夫」と思えるようになった。

6ヶ月間のプログラムを振り返り、ハナさんが1つ学んだことがある。「子どもには心がある」ということだ。当然、子どもにも感情もあれば、意思もある。「言っても言うことをきかない時、子どもがどうしてやらないのかが分からなかった」とハナさん。能力がないのか、やり方を知らないのか。それとも、それが障害なのかと思ったこともあった。

「子どもに心があることは当たり前のことなのに、自分が苦しかった時はそれを忘れてしまっていたんです。言ってもやらないとか、叩いてくるとか、行動ばかりに気を取られ、その奥にある心を見ることができていませんでした」。

カズ君がひどく暴れていた時、ハナさんは子どものことが怖く、どう接したらいいか分からなかった。「子どものことを、自分の手には余る大きなトゲトゲのついたモンスターだと思っていた」と振り返る。

「でも、プログラム中にモンスターの背中チャックをそっと開けて、中を垣間見られた瞬間があったんです。そこには、今まで見たことがないような小さくて弱い、震えている本当の子どもがいました。もっとお母さんに好かれない、愛してほしい、より良くなりたい、そんな



図式化しながら説明する牛田医師



専用の書類棚

ふうに思っている子どもが、最後にはモンスターの皮を脱いで出てきた。やっと本当の子どもに出会えた…そんな感じがしているんです」。

牛田医師は次のように言う。「子どもが問題行動を起こした時、大人は、子ども“個人”の中に原因を見出そうとします。しかし、原因は子ども“個人”というより、子どもにも心があることをすっかり忘れてしまった私たち大人と、子どもとの“関係”にあるのかもしれない」。

この視点こそが、今、私たち大人に必要とされているもののなのかもしれない。

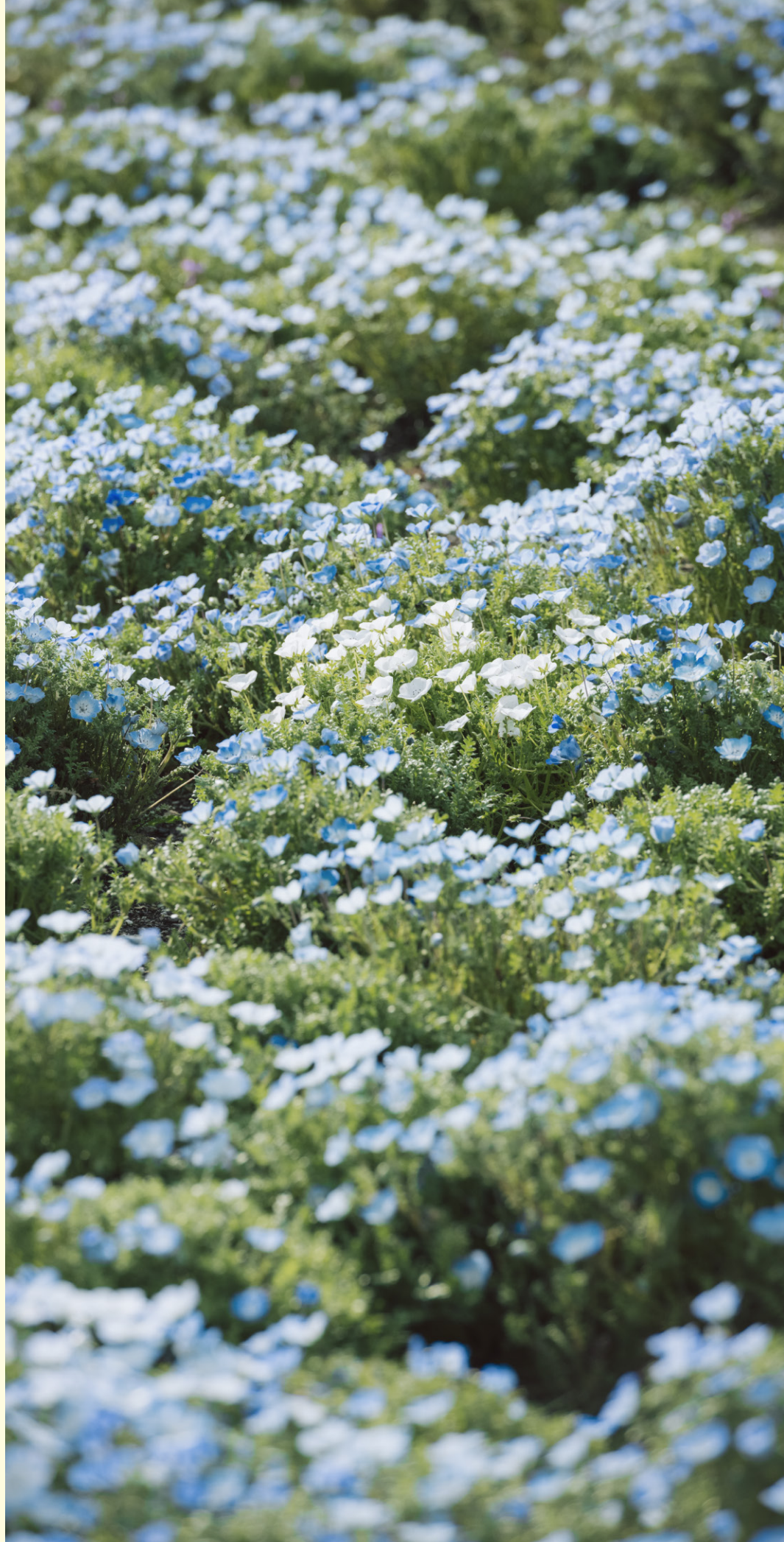
※写真内の親子はモデルです。



牛田 美幸 先生

国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター 児童心療内科医長

1991年高知医科大学医学部（現高知大学医学部）卒。その後、高知医科大学医学部附属病院、国立療養所香川小児病院、国立善通寺病院に勤務。2007年より国立病院機構香川小児病院。2010年より同院児童心療内科医長。2013年病院統合に伴い現職。



Annual Report 2022

事業内容と2022年度のご報告

1 研究助成  47名 7,058万円	小児医学・医療の進歩とともに救われる命は増え、子どもたちの健康は確実に守られてきています。しかし、解決すべき問題はまだまだたくさんあります。当財団では、小児疾患の原因究明・治療・予防などに関する研究の発展を支援するため、1990年から小児医学研究者に対して助成金の交付を行っています。2007年には、若手研究者の活躍を後押しするために40歳以下の研究者を対象とする若手枠も設けました。一般枠は1人300万円、若手枠は1人100万円を上限として、助成金を交付しています。
2 奨学金給付  27名 1,944万円	「小児科医になって、子どもたちを支えたい」そんな高い志を持ちながらも、経済的な理由によって進学を諦めてしまう学生がいます。当財団では1990年から、小児医学を志す医学生および小児医学研究に従事している大学院生に対して奨学金事業を行っています。2021年からは埼玉県に加え、千葉県内の高校を卒業した方も対象としています。また、昨今の物価上昇をかんがみ、2023年からは月額を7万円に上げ、正規の最短修業年限以内において給付をします。奨学生は当財団開催のイベントを通じて、実際に活躍している小児医学研究者から直接学ぶこともできます。
3 小児医学 川野賞  3名 300万円	財団設立10周年を記念して、1999年に創設した小児医学川野賞。優れた業績を挙げ、学術の進歩に貢献した小児医学研究者を表彰しています。“小児医学のさらなる発展を”との願いから、受賞後も小児医学への貢献が期待される55歳以下の研究者を対象としています。受賞者には賞状、賞金100万円とトロフィーが贈呈されます。創設当初は基礎医学、臨床・社会医学の2分野からの選出でしたが、2019年からは基礎医学、臨床医学、社会医学の3分野にて選出をしています。

すべての子どもたちが心身ともに健やかに成長してほしい。そんな社会を目指し、川野小児医学奨学財団は6つの事業を行っています。2022年度の活動を数値とともにご報告します。

4 医学会助成  8件 380万円	熱心な研究者が集い、研究発表や意見交換を行う医学会。当財団では、小児医学におけるさまざまな専門分野の発展を願い、1992年から日本国内で開催する小児医学に関する医学会に対して助成金を交付しています。現在では1件70万円を上限として助成しており、毎年多くの医学会よりご申請をいただいています。小児医学研究者の知識の共有や技術の進歩を支える取り組みとなっています。
5 小児医療 施設支援  4件 520,797円	入院や入所をしている子どもたちにとっては、病院や入所施設がまさに生活の場。そういった子どもたちのQOL(生活の質)を高めることは大切ですが、医療機関や施設がそのための予算を十分に確保するのは簡単ではありません。そこで1995年から、設備やボランティア活動を充実させるための費用に対して助成金を交付しています。2022年からは埼玉県に加え千葉県内の施設も対象とし、1件15万円を上限として、おもちゃや絵本、オンライン面会用の通信機材などの購入にお使いいただいています。
6 ドクターによる 出前セミナー  12件	子どもたちの命や健康を守るために、学校現場や保育園、幼稚園などにおいても、医学的に適切な対応が求められるようになってきています。財団設立30周年を記念して2019年にスタートしたこの事業では、学校や保育園などで小児保健に従事する方たちが開催する研修会に対して、当財団が仲介役となり、小児科医を中心とした専門家を講師として派遣しています。2021年からは、養護教諭が実施する研修会に加え、就学前教育・保育施設の看護職従事者が実施する研修会にまで講師派遣対象を拡大しています。

1 研究助成



2022年度は一般枠61名・若手枠51名の応募がありました。2022年3月12日に開催した選考委員会の結果、一般枠22名・若手枠25名の計47名の研究者に総額70,584千円の助成金を交付しました。2023年3月11日には都内会場にて、4年振りに対面形式にて助成研究成果発表会を開催しています。

交付者一覧

■ 一般枠22名

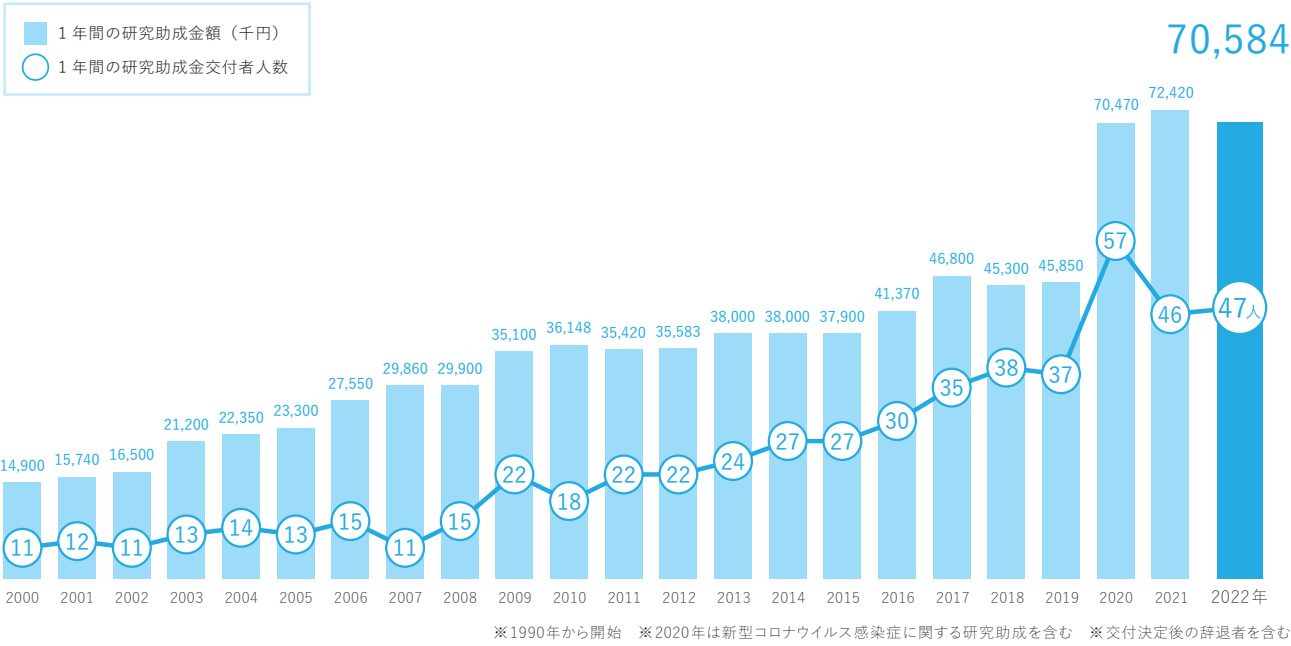
氏名	所属機関「テーマ」	交付額 (千円)	氏名	所属機関「テーマ」	交付額 (千円)
才田 聡	京都大学医学部附属病院小児科 「シングルセルシーケンスを用いた小児最末分化型急性骨髄性白血病（AML-M0）における遺伝子変異および発現プロファイルの生物学的・臨床的意義に関する検討」	3,000	国分 貴徳	埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専攻「脳性麻痺児の関節拘縮発生メカニズムの解明と新規リハビリテーション介入基盤の創出」	2,400
三好 悟一	東京女子医科大学神経生理学 「自閉スペクトラム症の小児医療サイズ創出」	3,000	井上 健一	獨協医科大学先端医学科学研究センター再生医学研究部門「新規疾患 NEDAMSS の本邦における疫学調査および、患者由来 iPS 細胞を活用した分子病態の解明」	2,400
埜中 正博	関西医科大学脳神経外科講座 「二分脊椎症の予防に向けた原因遺伝子の解明：患者の全ゲノム解析から疾患モデル動物の創出に至るリバーストランスレーショナルリサーチ」	3,000	長野 伸彦	日本大学医学部附属板橋病院/日本大学医学部小児科学系小児科学分野「低出生体重・非肥満型高血糖発症マウスモデルの病態解明と成長ホルモン治療の効果」	1,600
武内 俊樹	慶應義塾大学医学部小児科 「重症新生児の内因性疾患および外因性疾患に対する包括的ゲノム診断システムの構築」	2,400	小原 崇一郎	東京都立大塚病院麻酔科 「アジアにおける小児の麻酔・鎮静関連重大事象の発生率に関する多国籍多施設前向き観察研究」	2,400
桑子 賢一郎	島根大学医学部生理学 「核を起点とした軸索制御機構による自閉スペクトラム症の病態解明」	2,400	廣野 恵一	富山大学附属病院小児科 「MYH7 の多様性に着目した心筋緻密化障害の病態の解明」	2,400
松浦 伸也	広島大学原爆放射線医科学研究所放射線ゲノム疾患研究分野「ダウン症候群の染色体治療法の開発に向けた偏トリソミー染色体喪失機構の解明」	2,400	川田 潤一	名古屋大学医学部附属病院小児科 「シングルセルおよびプロテオーム解析による EB ウイルス関連血球貪食性リンパ組織球症の病態解明」	2,400
盛武 浩	宮崎大学医学部発達泌尿生殖医学講座小児科学分野「再発難治小児急性骨髄性白血病の病態解明と新規治療法開発」	2,400	八代 健太	京都府立医科大学大学院医学研究科生体機能形態科学「細胞アトラス解析による心臓血管系の形態形成を支えるシグナルネットワークの解明」	2,400
吉見 昭秀	国立がん研究センター研究所がん RNA 研究ユニット「小児がん検体を用いた Deorphanization と新規がん治療法の開発」	2,400	竹内 純	東京医科歯科大学難治疾患研究所「心筋炎症を制御する TBX5 遺伝子と機能回復に向けたアプローチ」	1,000
豊田 秀実	三重大学大学院医学系研究科小児科学講座「動物モデルを用いた非典型溶血性尿毒症候群の病態解明」	2,400	山崎 大賀	北里大学メディカルセンター研究部門「エビゲノム操作による遺伝性神経変性疾患の治療モデル開発」	1,500
菱木 知郎	千葉大学大学院医学研究院小児外科学「神経芽腫微小環境における免疫応答理解に基づく NKT 細胞標的免疫療法の開発」	2,400	宮野 剛	順天堂大学附属浦安病院小児外科「小児領域カダババーサージカルトレーニング実現への挑戦に向けた遠隔教育システムの構築」	1,500
柿坂 啓介	岩手医科大学医学部内科学講座消化器内科肝臓分野「リジン尿性蛋白不耐症：細胞内アミノ酸不均衡を標的とした新規治療法確立を目指して」	2,400	本橋 紀夫	国立精神・神経医療研究センター神経研究所遺伝子疾患治療研究部「RNA 結合タンパク質を用いた筋ジストロフィーの病態解明と治療法の開発」	1,500
※敬称略・所属機関は交付内定時の機関			小計		49,700

■ 若手枠25名

氏名	所属機関「テーマ」	交付額 (千円)	氏名	所属機関「テーマ」	交付額 (千円)
早川 格	国立成育医療研究センター小児内科系専門診療部神経内科「小児の眼球運動異常の非侵襲的・客観的・定量的な評価系の確立」	1,000	南部 隆亮	埼玉県立小児医療センター消化器・肝臓科「単一遺伝子異常を伴う炎症性腸疾患（Monogenic IBD）における腸管組織を用いた機能解析方法の確立」	1,000
仁平 寛士	京都大学医学部附属病院小児科「ADA2 欠損症疾患モデルを用いた変異機能解析及び血管炎新規治療薬探索」	1,000	穂坂 翔	筑波大学附属病院小児科「小児遺伝性血液免疫疾患に対するゲノム編集を用いた非同相組換えによる遺伝子治療モデルの開発」	1,000

辻本 信一	横浜市立大学附属病院小児科「再発・難治急性骨髄性白血病に対するゲノム創薬研究」	1,000	迎 恭輔	埼玉県立がんセンター臨床腫瘍研究所「MYCN 増幅 /ALK 変異神経芽腫における発がん機構の解明」	800
田中 泰圭	福岡大学てんかん分子病態研究所「脳オルガノイド病態モデルを活用して発達性てんかん性脳症と神経変性との相関関係を明らかにする」	1,000	松岡 諒	東京慈恵会医科大学小児科学講座「新生児・乳児消化管アレルギーにおける病勢把握のためのマーカーの探索」	800
井上 真紀	大分大学医学部小児科学講座「LARS1 遺伝子改変ノックインゼブラフィッシュ・ノックインマウスを用いた乳児肝不全症候群 1 型の病態分子機構の解明」	1,000	加藤 大貴	名古屋市立大学大学院医学研究科腎・泌尿器科学分野「思春期における 1 細胞 RNA-sequence による血液精巣関門の成立の解明・停留精巣モデル動物を用いた新規男性不妊治療法を目指して-」	800
清水 智弘	北海道大学病院整形外科「人工知能を用いた乳児股関節脱臼自動解析システムの開発」	1,000	吉村 翔平	神戸大学医学部附属病院小児外科「早産児腹膜炎に対する新規治療薬開発に向けた萌芽的研究：早産児腹膜炎モデルマウスに対する IL-12 補充による自然免疫、獲得免疫賦活化の生存率改善効果の検証」	784
長内 康幸	自治医科大学医学部解剖学講座組織学部門「先天性大脳白質形成不全症の病態解明と新規治療戦略の検討」	1,000	吉塚 梯子	久留米大学病院小児科学講座「親と死別した AYA 世代の複雑性悲嘆の早期発見、予防プログラムの開発」	800
中田 聡	群馬大学医学部附属病院脳神経外科「小児脳腫瘍における BCOR 変異の意義の検討」	1,000	須田 一人	順天堂大学医学部小児外科・小児泌尿生殖器外科「ヒルシュブルング病腸管における上皮機能異常の解明」	500
手塚 宜行	岐阜大学大学院医学系研究科感染症寄附講座「母乳による口腔内および糞便細菌叢の構造・機能変化が極低出生体重児に及ぼす MRSA 保菌合併症率への影響」	1,000	塩田 友果	金沢大学（兼大阪大学大学院）子どものこころの発達研究センター（兼連合小児発達学研究所）「ゲノムおよび脳機能解析による診断関下自閉スペクトラム症の診断指標の開発」	500
平井 健太	岡山大学病院小児科「新規軟骨無形成症モデルと in vivo 化合物スクリーニングによるゼブラフィッシュ創薬」	1,000	大谷 嘉典	島根大学医学部解剖学講座（神経科学）「ミエリン軸索相互作用から解明するアンジェルマン症候群の新規病態メカニズム」	500
伊藤 祐史	愛知県三河青い鳥医療療育センター小児科「超早産児として出生した学童に対する包括的な運動機能評価」	800	真里谷 奨	札幌医科大学医学部産婦人科学講座「北海道周産期・新生児 WES・WGS 検査解析プラットフォーム確立へ向けた至適実施体制構築に関する基盤的研究」	500
杉田 光士郎	鹿児島大学病院小児外科／救命救急センター「壊死性腸炎モデルラットを用いた新生児神経学的予後向上に関する研究 - 敗血症とテトラヒドロbiopterin のクロストーク解析 -」	800	鍋木 多映子	群馬県立小児医療センター血液腫瘍科「7 番と 5 番染色体欠失、部分欠失を有する小児急性骨髄性白血病の病態解明と重要遺伝子の同定」	500
中山 昌喜	防衛医科大学校分子生体制御学講座「小児期に発症する腎性低尿酸血症の臨床遺伝学的解析：世界初の診療ガイドラインのさらなる改訂に向けて」	800			
※敬称略・所属機関は交付内定時の機関			小計	20,884	

これまでの実績 [研究者に対する研究助成金と交付者の推移]



2 奨学金給付

2022年度は17名の応募があり、選考委員による書類審査および理事長による面接選考の結果、新規8名の医学生に対する給付を決定しました。継続19名と合わせて計27名の医学生に対して、総額19,440千円の奨学金を給付しました。2022年9月10日には都内会場にて、奨学生証書授与式を対面形式にて開催しました。また、2022年度からは「キャリアセミナー」や「コミュニケーション研修」など奨学生向けのプログラムも開始しています。



奨学生に贈られる盾



奨学生証書授与式の様子

給付者大学一覧

■ 新規給付 8 名

大学名	人数	年間給付額(千円)
国際医療福祉大学	1	720
滋賀医科大学	1	720
順天堂大学	1	720
東京慈恵会医科大学	1	720
東京女子医科大学	1	720
東北大学	1	720
獨協医科大学	1	720
日本大学	1	720
※五十音順	小計	5,760

■ 継続給付 19 名

大学名	人数	年間給付額(千円)
大分大学	2	1,440
杏林大学	1	720
慶應義塾大学	3	2,160
東京医科大学	1	720
東京女子医科大学	1	720
東北医科薬科大学	4	2,880
東北大学	2	1,440
獨協医科大学	1	720
福島県立医科大学	4	2,880
※五十音順	小計	13,680

奨学生向けプログラムの開始

将来医学を担う奨学生には医療技術に優れているだけではなく、人から信頼され、感謝される医師になってほしい。30年以上にわたる奨学金事業を通じて、そう願ってきました。そこで、仕事をする上で基礎となる力を身につけてもらえるよう、2022年度より奨学生向けに「キャリアセミナー」「コミュニケーション研修」「メンタルヘルス研修」などのプログラムの提供を開始しました。

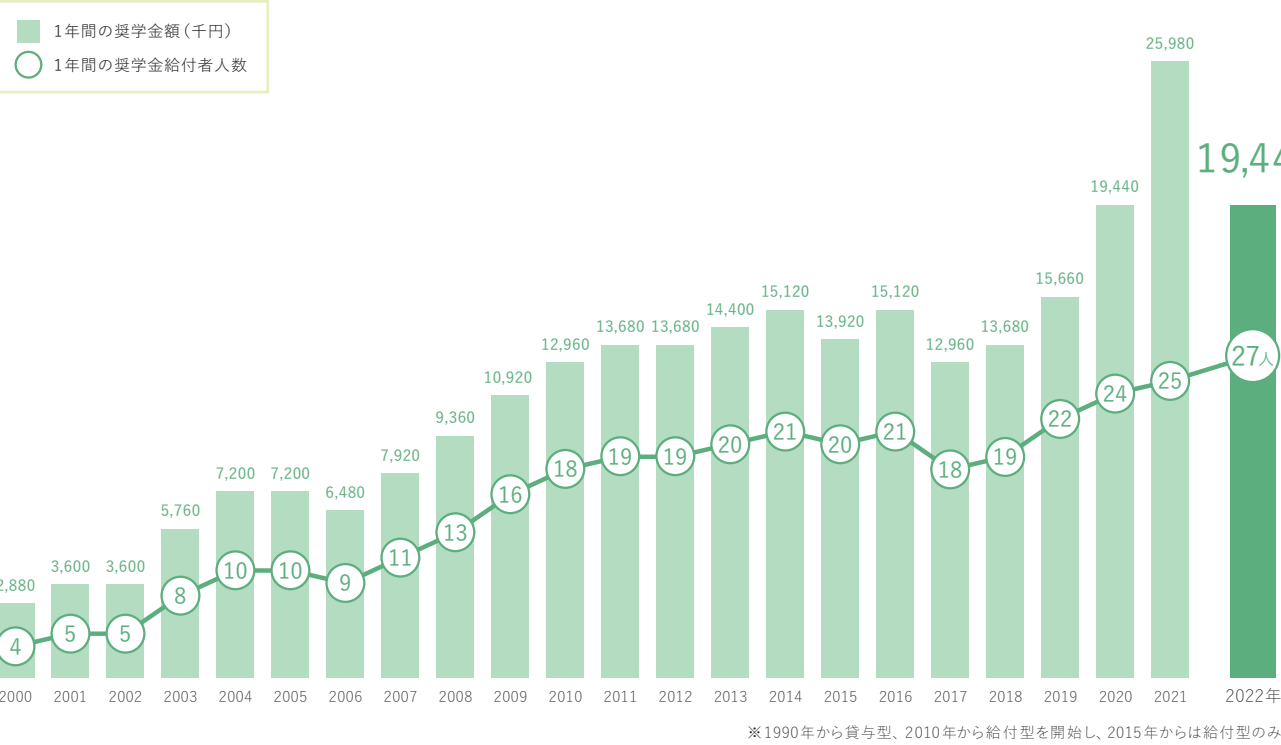
「コミュニケーション研修」のご紹介(一例)

研修の概要
開催日：2022年9月10日(土) 内容：「コミュニケーションの基本と重要性」「感じの良い話し方」
参加人数：14名
講師：松田 幸子氏(YOU企画代表) 「話の聴き方」「正しい情報伝達」



＼奨学生の声／ 河西 歩さん 獨協医科大学医学部医学科5年
実践を通して、コミュニケーションの難しさや意識すべきポイントを体感することができ、具体的な練習方法も学ぶことができました。

これまでの実績 [医学生に対する奨学金と給付者の推移]



3 小児医学川野賞

2022年度は基礎医学 6 名・臨床医学 10 名・社会医学 3 名の応募があり、2022 年 12 月 11 日に実施した選考委員会の結果、3 名の研究者に小児医学川野賞を贈呈しました。2023 年 3 月 11 日には都内会場にて、4 年振りに対面形式にて贈呈式および記念講演会を開催しています。

受賞者一覧

分野	氏名	所属機関	研究テーマ
基礎医学	三宅 紀子	国立国際医療研究センター研究所 疾患ゲノム研究部	単一遺伝子疾患の新規疾患責任遺伝子の 同定と病態解明
臨床医学	小林 徹	国立成育医療研究センター 臨床研究センターデータサイエンス部門	川崎病における新規治療法開発
社会医学	岡田 あゆみ	岡山大学学術研究院 医歯薬学域（小児医科学）	小児心身医学を通した子どもとその家族への 支援を目的とした研究

※敬称略・所属機関は受賞時の機関

受賞者コメント

基礎医学 三宅 紀子先生

大変荣誉ある小児医学川野賞（基礎医学研究）を賜ることができ、誠に光栄に存じます。今回頂きました賞を励みに、今後も単一遺伝子疾患の患者さんやご家族、医療の現場に貢献できるような研究を継続・発展させていきたいと思ひます。



臨床医学 小林 徹先生

私が取り組んできた川崎病分野における大規模多施設共同臨床研究は一人の力で完遂できるものではなく、たくさんの医師やメディカルスタッフのご協力の下に一つ一つ丁寧に時間をかけて紡いだ、まさに汗と涙の結晶です。故川崎富作先生をはじめとした多くの関係者の皆様に重ねて御礼申し上げると共に、今後も臨床研究・社会実装活動に引きつづき尽力して参りたいと存じます。



社会医学 岡田 あゆみ先生

この度は荣誉ある小児医学川野賞を頂戴し誠に光栄です。これまでご指導・ご支援くださった皆様に感謝申し上げます。“There is no such thing as an infant.”「一人の赤ん坊はいない」は、英国の小児科医であり精神分析家でもあった Winnicott, D. の言葉です。子どもと家族、そして子どもを取り巻く社会とのつながりを想いながら、貴財団が掲げるように「みんなでのりこえる」ための方法を今後も探していきたいと思ひます。



これまでの受賞者

回 / 年度	分野	氏名	所属機関
第 1 回 2000 年度	—	奥山 真紀子	埼玉県立小児医療センター保健発達部精神科
第 2 回 2001 年度	基礎医学	林 泰秀	東京大学医学部小児科
	基礎医学	長谷川 奉延	慶應義塾大学医学部小児科
	臨床・社会医学	平岡 政弘	福井医科大学小児科
第 3 回 2002 年度	基礎医学	廣瀬 伸一	福岡大学医学部小児科
	臨床・社会医学	大井 静雄	東京慈恵会医科大学脳神経外科学講座
第 4 回 2003 年度	基礎医学	緒方 勤	国立成育医療センター研究所小児思春期発育研究部
	臨床・社会医学	吉川 徳茂	和歌山県立医科大学小児科
第 5 回 2004 年度	基礎医学	斎藤 博久	国立成育医療センター研究所免疫アレルギー研究部
	臨床・社会医学	加治 正行	静岡県立こども病院内分泌代謝科
第 6 回 2005 年度	基礎医学	伏木 信次	京都府立医科大学大学院医学研究科分子病態病理学
第 7 回 2006 年度	基礎医学	大橋 十也	東京慈恵会医科大学 DNA 医学研究所遺伝子治療研究部・同小児科
	臨床・社会医学	夏目 長門	愛知学院大学歯学部口唇口蓋裂センター
第 8 回 2007 年度	基礎医学	峯岸 克行	東京医科歯科大学大学院免疫アレルギー学
	基礎医学	塚原 宏一	福井大学医学部附属病院小児科
	臨床・社会医学	山高 篤行	順天堂大学医学部小児外科
第 9 回 2008 年度	基礎医学	金子 英雄	岐阜大学大学院医学系研究科医学部地域医療医学センター
	臨床・社会医学	小崎 健次郎	慶應義塾大学医学部小児科学教室
第 10 回 2009 年度	基礎医学	深尾 敏幸	岐阜大学大学院医学系研究科小児病態学
	臨床・社会医学	高橋 幸利	静岡てんかん・神経医療センター臨床研究部
第 11 回 2010 年度	基礎医学	先崎 秀明	埼玉医科大学国際医療センター総合周産期母子医療センター小児循環器部門
	臨床・社会医学	海老澤 元宏	相模原病院臨床研究センターアレルギー・性疾患研究部
第 12 回 2011 年度	基礎医学	下澤 伸行	岐阜大学生命科学総合研究支援センターゲノム研究分野
	臨床・社会医学	川崎 幸彦	福島県立医科大学小児科
第 13 回 2012 年度	基礎医学	福田 誠司	島根大学医学部小児科学
	臨床・社会医学	加藤 光広	山形大学医学部附属病院小児科
第 14 回 2013 年度	基礎医学	滝田 順子	東京大学大学院医学系研究科生殖・発達・加齢医学小児科
	臨床・社会医学	浜野 晋一郎	埼玉県立小児医療センター
第 15 回 2014 年度	基礎医学	滝沢 琢己	群馬大学大学院医学系研究科小児科学分野
	臨床・社会医学	高橋 謙造	帝京大学大学院公衆衛生学研究科
第 16 回 2015 年度	基礎医学	田島 敏広	自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児科
	臨床・社会医学	家入 里志	鹿児島大学学術研究院医歯学域医学系小児外科学分野
第 17 回 2016 年度	基礎医学	北中 幸子	東京大学大学院医学系研究科小児医学講座
	臨床・社会医学	野津 寛大	神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野
第 18 回 2017 年度	基礎医学	竹田 誠	国立感染症研究所ウイルス第三部
	基礎医学	深見 真紀	国立成育医療研究センター分子内分泌研究部
	臨床・社会医学	森岡 一朗	神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門
第 19 回 2018 年度	基礎医学	道上 敏美	大阪母子医療センター研究所環境影響部門
	臨床・社会医学	酒井 康成	九州大学大学院医学研究院成長発達医学分野小児科学
第 20 回 2019 年度	基礎医学	川井 正信	大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門／消化器・内分泌科
	臨床医学	武内 俊樹	慶應義塾大学医学部小児科
	社会医学	頼藤 貴志	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科社会環境生命科学専攻疫学・衛生学分野
第 21 回 2020 年度	基礎医学	安友 康二	徳島大学大学院医歯薬学研究部（医学域）
	臨床医学	齋藤 昭彦	新潟大学大学院医歯学総合研究科小児科学分野
	臨床医学	笠原 群生	国立成育医療研究センター臓器移植センター
第 22 回 2021 年度	基礎医学	鏡 雅代	国立成育医療研究センター分子内分泌研究部臨床内分泌研究室
	臨床医学	難波 文彦	埼玉医科大学総合医療センター小児科
	社会医学	森崎 菜穂	国立成育医療研究センター社会医学研究部

※敬称略・所属機関は受賞時の機関

開催レポート

2022年度助成研究成果発表会・川野賞贈呈式および記念講演会

新型コロナウイルス感染症の影響により、ここ数年、助成研究成果発表会・川野賞贈呈式および記念講演会はオンラインでの開催を余儀なくされてきました。2022年度は、2023年3月11日に都内会場にて、4年振りに対面形式にて開催をすることができました。当日は約50名の方が会場に足を運んでくださり、盛会のうちに終えることができました。また、助成研究成果発表会はライブ配信を行い、遠方にお住まいの方々にもご参加いただきました。

助成研究成果発表会

冒頭、川野幸夫理事長より当財団の設立背景や研究助成事業に込める想いなどあいさつがあり、その後、一般枠の助成金交付者による成果発表会がスタートしました。今回は、21名がそれぞれの研究の目的や意義、成果について発表を行いました。質疑応答の時間には、研究者同士の意見交換もされました。



理事長あいさつ



発表を熱心に聞く参加者



一般枠助成金交付者による発表

川野賞贈呈式および記念講演会

桃井真里子選考委員長より2022年度小児医学川野賞の選考について報告いただきました。川野幸夫理事長より各受賞者にトロフィーと賞状、賞金100万円が贈呈されたのち、各受賞者が受賞対象研究領域の世界的潮流や研究の成果、今後の方向性などについて講演を行いました。



選考委員長による報告



受賞者と理事長の記念撮影



受賞者に贈られるトロフィー

交流会

川野賞贈呈式および記念講演会の後には、小児医学を志す当財団の奨学生3名を交え、研究者との交流会も実施しました。奨学生が熱心に質問し、目を輝かせて話を聞く様子がみられ、短い時間ながら交流を深める時間となりました。



研究者と交流を深める奨学生



交流会冒頭の様子



理事長と熱心に話す奨学生

参加者の声

研究発表会、川野賞贈呈式に参加する中で、小児医療に携わる医療研究者をはじめとする皆様の想いに触れました。また、川野財団様のこれまでの功績を実感する1日となり、この度は参加させていただき誠にありがとうございました。

これから小児医学に必要と思われる分野や課題に御助成いただきすばらしいと感じました。他の先生方のご発表、殊にリハビリや医療者の教育など様々な分野の研究進捗を対面で拝聴でき大変勉強になりました。

理事長より財団設立の経緯などを伺い大変感銘を受けました。小児科の研究分野は細分化されておりますが、他科との競合もあるなか研究費の獲得は容易ではありません。貴財団のような小児に特化した研究助成は大変貴重であり、今後も継続いただけることを切に望みます。

今回、対面式の良さを再確認しました。やはり顔が見えて、コミュニケーションがとれ交流できることはとても大切だと思います。とても多くのことを学ばせていただきました。

4 医学会助成

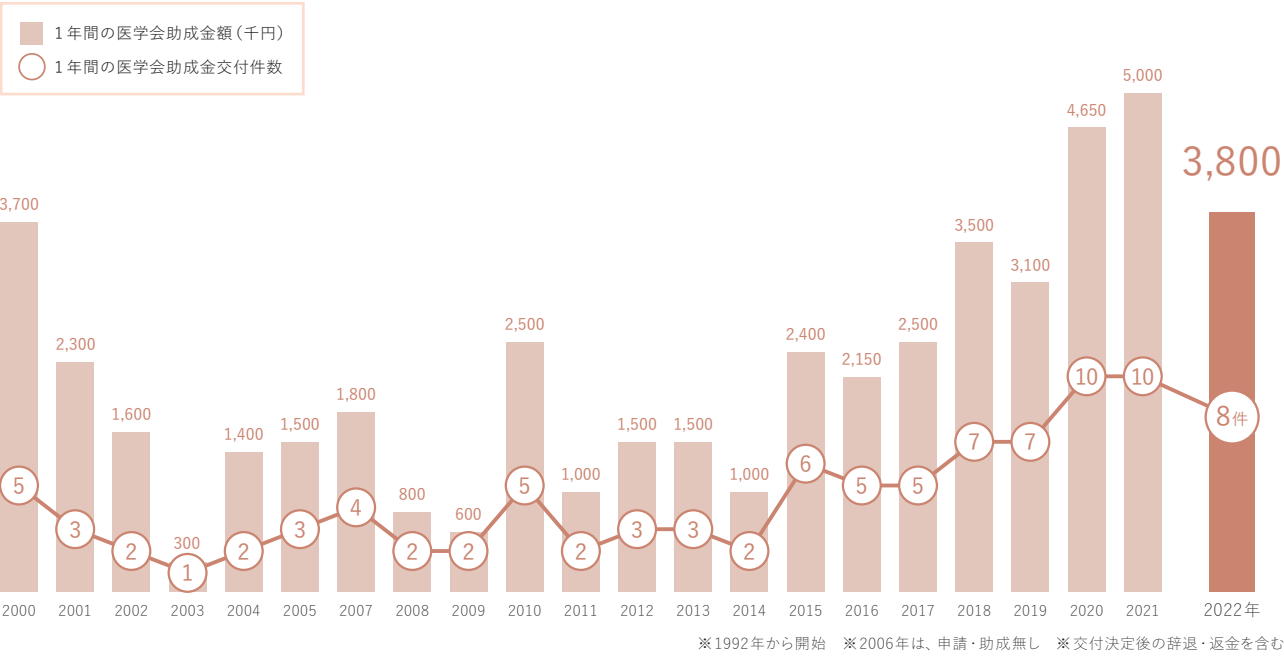


2022年度は9件の応募がありました。
選考委員による書類審査の結果、8件の医学会に対して総額3,800千円の助成金を交付しました。

助成先一覧

学会名	開催日	開催場所	交付額(千円)
第64回 日本小児神経学会学術集会	2022年6月2日～6月5日	G メッセ群馬	500
第69回 日本小児保健協会学術集会	2022年6月24日～6月26日	三重県総合文化センター	500
第31回 日本小児泌尿器科学会総会・学術集会	2022年7月20日～7月22日	都市センターホテル	500
第25回 日本摂食障害学会学術集会	2022年10月15日～10月16日	TKP ガーデンシティ PREMIUM 大宮	500
第38回 日本小児外科学会秋季シンポジウム・PSJM 2022	2022年10月27日～10月29日	岡山コンベンションセンター	500
第24回 日本子ども健康科学会学術大会	2022年11月26日～11月27日	杏林大学 井の頭キャンパス A 棟 1 階	300
第43回 日本小児腎不全学会学術集会	2022年12月8日～12月9日	御茶ノ水ソラシティ カンファレンスセンター	500
第33回 日本小児整形外科学会学術集会	2022年12月9日～12月10日	パシフィコ横浜会議センター	500
※開催日順			合計 3,800

これまでの実績 [医学会に対する助成金と交付件数の推移]



5 小児医療施設支援



2022年度からは、埼玉県に加え千葉県内の施設も対象として申請を受け付けています。4件の応募があり、選考委員による書類審査の結果、全4件の小児医療施設に対して総額約521千円の助成金を交付しました。



多目的個別ブース

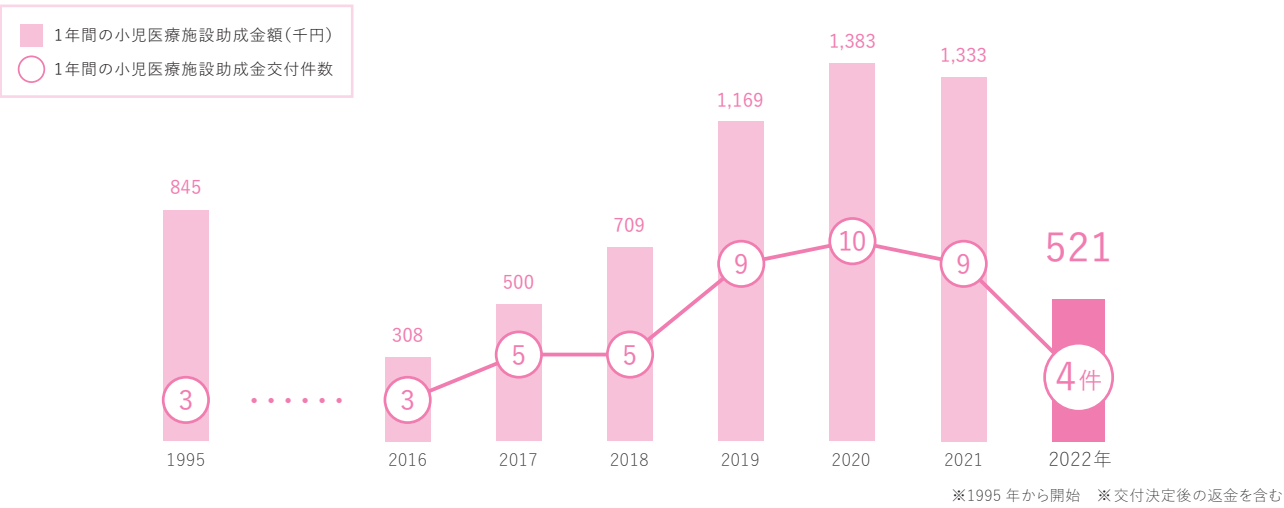


ツリーチャイルド

助成先一覧

施設名	使 途	助成金額(円)
国立国際医療研究センター国府台病院	ベンチ・多目的個別ブース・水槽・キッチンツール	146,077
埼玉県立嵐山郷	プロジェクター・ロールスクリーン	138,380
千葉県千葉リハビリテーションセンター愛育園	iPad・楽器	148,400
千葉大学医学部附属病院	DVDセット・知育絵本・知育おもちゃ	87,940
※五十音順		合計 520,797

これまでの実績 [小児医療施設に対する助成金と交付件数の推移]



6 ドクターによる出前セミナー



2022年度は養護教諭向け14件・看護職向け2件のお申し込みがありました。

選考委員による審査の結果、全16件に対して講師を派遣することを決定しました。長引くコロナ禍の影響により子どもの心に関する問題をテーマとする申込が多く、一部合同開催とし12件の研修会を実施しています。

講師 & 受講者インタビュー

10月には、「慢性疾患の子どもが楽しい保育所になるために」をテーマに、オンラインの出前セミナーを実施しました。講師をしていただいた埼玉医科大学総合医療センター小児科教授の是松聖悟先生と、当日受講した看護職の方を代表して全国保育園保健師看護師連絡会の須藤佐知子先生に感想を伺いました。

■ 講師インタビュー



変わりゆく保育施設において 医師と現場が連携し 子どものためにできること

埼玉医科大学総合医療センター小児科 教授
是松 聖悟 先生

Q 保育施設で働く看護職の方々に講義で伝えたかったことは何ですか？

医療的ケア児支援法ができ、保育所では様々な疾患を持つ子どもを受け入れるようになりましたが、対応に困っていたり、慌てているところも多いと思います。医学的な知識を持つ看護師さんであっても、例えば発達障害など近年着目されている疾患の最新知識を看護教育の中で習ったかという、決してそうではないと思います。そのため、間違って認識されていることも多々あるのではないかと感じていました。それを少しでもわかりやすく伝えることで「正しい情報」に置き換えていくことができれば、現場でも役立ててもらえるはず。例えば、ありがちな感染症対策の落とし穴などを、クイズ形式で楽しく学んで

もらおうと考えました。

Q セミナーを終えて、医師としてどのようなことを感じましたか？

いろいろと講演の機会をいただけていますが、私にとって人に教えることよりもっと重要なのが「友達を増やし、連携すること」だと考えています。子どもへの対応においては、医師が一番上にいる人間ではなく、他職種の輪の中にいる一人のプロ。保育士や看護師、学校の先生やコーディネーターなどがプロとして考えを持ち寄れば、子どもに対してやってあげられることは間違いなく増えます。そのつながりのきっかけを川野財団からいただけていることは非常にありがたいと思っています。

Q 今後、現場の看護職の方々と一緒に考えていきたいことを教えてください。

現場の方々が医師とつながりたいと思うのと同じくらい、我々も現場の声を知りたいと思っています。私はこれまでも現場に足を運び、地域医療を大切にしようと取り組んできました。この取り組みが日本全国に広がっていくことを目標にしているからこそ、現場の方々も、

医師の仲間も、もっと巻き込んで、体制づくりにも力を入れていきたいです。最近は日本小児科学会でも、慢性疾患の子どもが元気に育つように小児科医が学校と連携しようという取り組みに力を入れ始めました。子どもたちが健康に育っていけるよう、医師としてその一助になる取り組みを引き続き考えていきたいと思っています。

■ 受講者インタビュー



個別性の高い疾患について 現場をよく知る医師から 基本を学べた貴重な時間

全国保育園保健師看護師連絡会 文京学院大学
須藤 佐知子 先生

Q お申し込みいただいたきっかけは何ですか？

我々は全国の保育所に勤める看護職の団体です。最近は慢性疾患を持つ子どもも保育園などの施設に通えるようになってきていますが、同じ病名でも生育歴や家庭環境によって対応が全く異なります。主治医や医療機関とコンタクトをとったり、受診に同行するのも難しく、看護職として頼りにされる存在にもかかわらず、見通しが持てず悩むことも多いです。そうした個別性の高い疾患についての基本や最新情報を、医師から直接学べる機会は貴重です。しかも是松先生のような「現場をよく知る先生」の話は、日々の仕事ですぐに役立つと思いました。

Q セミナーを受けてみての感想を聞かせてください。

自分たちの思い違いに「ハッ」とすることも多く、知識のアップデートにもつながりました。90分のオンライン形式でしたが、「あつという間」の楽しい時間で、参加者は皆、非常に満足していました。

親御さんとの情報共有に役立つ資料や、園に戻ってから共有できる資料、学会資料などをお土産としていただけたのもありがたかったです。セミナー以降も研修会のご案内をいただくなど、日々の仕事に役立つ情報も共有いただいています。

Q 今後、財団に期待することはありますか？

保育園看護職という仕事はなかなか光が当たりにくく、「縁の下での力持ち」的な存在です。そういうところにも気にかけてサポートしていただけるのは非常にありがたいです。保育園看護職は各園に一人であり、医療の現場から離れて一人であらゆることを判断しなくてはなりません。それがやりがいになる一方で、現場でうまくいかないと離職につながることもあります。私たちの団体でも励ましあえる仲間づくりは進めていきますが、小児医療の最新知識など、自己研鑽に励めるセミナーを引き続き開催していただけると嬉しいです。

開催一覧

実施日	テーマ「演題」	講 師	受講者数 実施形式	主催者
2022年 7月6日(水)	保健室での救急処置 「養護教諭に知ってもらいたい保健室 でのけがの処置」	自治医科大学とちぎ子ども医療センター 小児整形外科 学内教授 渡邊英明先生	約 90 名 オンライン	川口市養護教員会
2022年 7月6日(水)	子どもの心に関する問題 「コロナ禍の子ども達のメンタルヘルス をどう支えたら良いのだろうか？」	埼玉医科大学総合医療センター小児科 教授 是松聖悟先生	約 160 名 対面	入間地区養護教諭 研究会
2022年 7月25日(月)	子どもの心に関する問題 「コロナ禍の子ども達のメンタルヘルス をどう支えたら良いのだろうか？」	埼玉医科大学総合医療センター小児科 教授 是松聖悟先生	約 100 名 オンライン	埼玉県養護教諭浦和地区 研修／東部高等学校保健 会合同研修会【合同開催】
2022年 7月26日(火)	保健室での救急処置 「骨折その他・学校での対応」	かわごえファミリークリニック 院長 浅野祥孝先生 埼玉医科大学総合医療センター救急科 救急救命士 安齋勝人先生 埼玉県南西部消防本部 指揮隊長 救急救命士 小寺紀明先生 埼玉県南西部消防本部朝霞消防署 救急隊長 救急救命士 高野宜子先生 埼玉医科大学総合医療センター救急科 救急救命士 野木祐介先生	約 20 名 対面	新座市養護教諭 研究協議会
2022年 7月28日(木)	子どもの心に関する問題 「コロナと共に生きる子どものころ - 輪(わ)とレジリエンスの視点から -」	子どもの虐待防止センター 山口有紗先生	約 70 名 オンライン	戸田市養護部会／本庄市 養護教諭研究会・保健主 事研究会【合同開催】
2022年 8月2日(火)	保健室での救急処置 「知っておきたい小児の外科疾患」	埼玉医科大学小児外科 教授 田中裕次郎先生	約 30 名 オンライン	加須市養護教員会
2022年 8月4日(木)	子どもの心に関する問題 「コロナと共に生きる子どものころ - 輪(わ)とレジリエンスの視点から -」	子どもの虐待防止センター 山口有紗先生	約 40 名 オンライン	行田市養護主任会／ 北本市保健部会 【合同開催】
2022年 8月25日(木)	子どもの心に関する問題 「コロナと共に生きる子どものころ - 輪(わ)とレジリエンスの視点から -」	子どもの虐待防止センター 山口有紗先生	約 90 名 オンライン	春日部市養護部会／ 熊谷市養護部会 【合同開催】
2022年 10月2日(日)	その他「慢性疾患の子どもが楽しい保 育所になるために」	埼玉医科大学総合医療センター小児科 教授 是松聖悟先生	約 60 名 オンライン	全国保育園保健師看護 師連絡会
2022年 11月5日(土)	発達障害を抱えた子どもへの対応 「気になる子の理解と支援 “きほんのき”」	白百合女子大学人間総合学部発達心理学科 教授 宮本信也先生	約 70 名 オンライン	千葉県保健・看護職会
2022年 11月22日(火)	子どもの心に関する問題 「子ども虐待をめぐって」	子どもの虐待防止センター 理事 奥山眞紀子先生	約 20 名 オンライン	蕨市養護教諭会
2022年 11月30日(水)	子どもの心に関する問題 「コロナ禍の子ども達のメンタルヘルス をどう支えたら良いのだろうか？」	埼玉医科大学総合医療センター小児科 教授 是松聖悟先生	約 150 名 オンライン	埼葛養護教員研究会

※開催日順 ※講師の所属先および役職は実施日時点のもの

2023年度中の募集について

2023年度は以下の事業において応募を受け付けます。詳細は当財団ウェブサイトをご覧ください。

募集概要



2023年度
小児医学川野賞

対象分野	小児医学、ことに基礎医学・臨床医学・社会医学に関する研究
応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 2024年3月31日時点で55歳以下であること (2) 所属する学会もしくは組織の責任者から推薦を受けていること
顕 彰	賞状、トロフィーおよび賞金 100 万円
募集期間	2023年8月～10月末頃予定



2023年度
小児医療施設支援

応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 原則として埼玉県または千葉県の県内にある入院病棟を有する医療施設または 医療型入所施設 (2) 2020年度以降に当財団の「小児医療施設支援」事業で助成金を受けていないこと
助成内容	15万円以内／件
募集期間	2023年8月～10月末頃予定



2024年度
医学会助成

応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 日本国内で開催する小児医学に関連する医学会であること (2) 開催日が2024年4月1日～2025年3月31日であること
助成内容	70万円以内／件
募集期間	2023年8月～10月末頃予定



2024年度
研究助成

対象分野	小児疾患の原因究明・診断・治療・予防等に関する基礎医学的研究、 臨床および社会医学的研究。ただし、日本国内の研究機関で行う研究に限る
応募資格	申請者が次の要件をいずれも満たすものとする (1) 日本国内の総合大学医学部、医科大学、医学研究機関、医療機関等で小児医学 研究に従事していること (2) 所属する組織の責任者から推薦を受けていること (3) 2021年度以降に当財団の「研究助成」事業で助成金を受けていないこと (4) 若手枠の場合は、2024年3月31日時点で40歳以下であること
助成内容	〈一般枠〉300万円以内／件 〈若手枠〉100万円以内／件
募集期間	2023年9月～11月末頃予定



2024年度
奨学金給付

応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 身体が健康であり、気質および素行ならびに学業が良好である者 (2) 埼玉県または千葉県の県内の高校を卒業し、日本国内の総合大学医学部、または 医科大学で小児医学を志す大学生、および小児医学研究に従事している大学院生 (3) 学長、副学長、または学部長の推薦を受けている者 (4) 当財団の定める給付者の義務を果たすことができる者
給付内容	月額 7 万円以内
募集期間	2024年2月～4月末頃予定



2024年度
ドクターによる
出前セミナー

セミナーテーマや申込資格、申込方法については当財団ウェブサイトをご覧ください！

おわりに

私は1982年の秋に、当時小学校2年生だった長男の「正登」を、
ウイルス性脳炎という病気で亡くしました。

いまもって信じられないほど、あっという間の出来事でした。

それまでの私は、仕事のことしか頭にありませんでしたから、
家族との生活の場は相当おろそかになっていたと思います。

正登が亡くなって、「あの子は、お父さんを求めている」と妻から聞かされ愕然としました。

そして、人の親としてあの子に何もしてやれなかったことを、
つくづく悔やみましたが、後悔は先に立ちません。

未だに正登には、本当に申し訳ないことをしてしまったと心で詫びている毎日です。

このような出来事が背景にあって、この川野小児医学奨学財団が設立されました。

申すまでもなく、子どもたちの無邪気な笑顔や素直な動作が世の中を明るくし、
私たち大人の心を和ませてくれます。

また、わが国や世界の将来を担ってくれるのも同じ子どもたちです。

そのかけがえのない大切な子どもたちが、明るく健やかに成長してくれることは、
親だけでなく等しくみんなの願いです。

日本においては小児医学・医療の劇的な進歩により、
新生児死亡率は世界でも1、2を争うほど低い状況になり、子どもたちの健康も増進されました。

しかし、時には正登のようなことも起こります。

また昨今では、医療的ケアを必要とする子どもや若年層の自殺者、児童虐待の増加など、
子どもを取り巻く問題が尽きることはありません。

当財団の使命は、どのような時代においても子どもたちの健やかな成長を実現することです。

そのために、これからも、多種多様な方々と共に一年一年歩んで参りたいと思います。

引き続き、あたたかいご指導とご支援を、よろしくお願いいたします。

理事長

川野幸夫



ご寄附のお願い

「病に苦しむ子どもたちを少しでも減らしたい」そんな想いにご賛同いただき、お力添えいただければ幸いです。

ご寄附は、小児医学研究者への研究費支援や、小児医学を志す医学生への奨学金給付などに使用させていただきます。

ご寄附の方法

- 1 以下いずれかの方法にてお申込みください。
 - ◆ 申込書（Word版）をご利用の場合
当財団ウェブサイトより寄附申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、
メール添付（PDF）・ご郵送・FAXのいずれかにて以下までお送りください。

メール添付の方	info@kawanozaidan.or.jp
ご郵送の方	〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 1-10-1 公益財団法人川野小児医学奨学財団 事務局宛
FAXの方	049-246-7006
 - ◆ 申込フォーム（Webフォーム版）をご利用の場合
当財団ウェブサイトより申込フォームにアクセスいただき、必要事項をご入力の上、お申込みください。
- 2 銀行等よりご寄附をお振込みください。
- 3 受領証明書が必要な方にはご入金確認後、受領証明書・寄附控除のご案内をお送りいたします。

寄附金申込書

◆ 申込書
（Word版）



◆ 申込フォーム
（Webフォーム版）



寄附金にかかる税制上の優遇措置

- 当財団にご寄附いただいた方は税金の控除等、優遇措置が受けられます。
- | | |
|------|--|
| 個人の方 | ご寄附をされた翌年の確定申告時に当財団発行の受領証明書を添付し、
所轄の税務署等にご申告ください。 |
| 法人の方 | ご寄附をされた当該事業年度の税務申告の際に損金算入手続きを行ってください。 |

応援メッセージ



千葉県
50代女性

子どもたちの未来にご尽力されている
皆様に敬意を表し財団へ
寄附させていただきました。
僅かですがお役に立ていただければ
幸いです。



神奈川県
60代女性

“命の大切さ”が叫ばれている昨今。
そのような中での子どもたちの笑顔は、
かけがえのない宝物です。
その宝物が少しでも増えますよう、
財団のご活躍を期待しています。

沿革

1989年	埼玉県 の認可を受け、財団法人川野小児医学奨学財団を設立
1990年	研究助成および奨学金貸与事業を開始
1992年	医学会助成事業を開始
1995年	小児医療施設支援事業を開始
1999年	財団設立10周年を記念して、小児医学川野賞を創設
2001年	特定公益増進法人に認定
2007年	研究助成事業に若手枠（40歳以下）を追加
2010年	奨学金給付事業を開始
2012年	公益財団法人に移行
2019年	行政庁を埼玉県から内閣府に変更 財団設立30周年を記念して、ドクターによる養護教諭のための出前セミナー事業を開始
2021年	奨学金給付事業の対象に千葉県内高校卒業者を追加 ドクターによる出前セミナー事業の対象に就学前教育・保育施設の看護職を追加
2022年	小児医療施設支援事業の対象に千葉県内にある施設を追加



当財団のロゴマークは、理事長の長男が亡くなった時に流れたであろう涙の滴の形をベースとしています。同時に、その時から当財団が抱き続けている「小児医学に関わる多様な人々の支えにより、多くの子どもの明るく健やかな成長を実現したい」という想いをハートと点で表しています。

役員・選考委員一覧

[理 事]	理 事 長 川野 幸夫 株式会社ヤオコー 代表取締役会長	[選考委員]	雨宮 伸 埼玉県社会福祉事業団嵐山郷 参与
	川野 光世 株式会社川野商事 代表取締役		岡 明 地方独立行政法人埼玉県立病院機構埼玉県立小児医療センター 病院長
	吉野 芳夫 伊藤忠商事株式会社 理事		奥山 真紀子 社会福祉法人子どもの虐待防止センター 理事
	新井 一 順天堂大学 学長		加藤 則子 十文字学園女子大学教育人文学部幼児教育学科 教授
	桃井 真里子 自治医科大学 名誉教授・信州大学医学部 客員教授		● 椛島 香代 文京学院大学人間学部 学部長
	上池 昌伸 株式会社ヤオコー 専務取締役		河野 陽一 地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター 理事長
			坂本 穆彦 大森赤十字病院 顧問
			城 宏輔 医療法人すずき小児科 院長
			林 泰秀 地方独立行政法人埼玉県立病院機構埼玉県立小児医療センター 顧問 上武大学 客員教授
			桃井 真里子 自治医科大学 名誉教授・信州大学医学部 客員教授
[監 事]	杉田 圭三 株式会社 CWM 総合経営研究所 取締役会長	[評議員]	山縣 然太朗 山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座 教授
	原 敏成 武州ガス株式会社 代表取締役社長		● 山崎 章子 埼玉県立浦和高等学校 養護教諭・埼玉県養護教諭会 顧問
			山城 雄一郎 順天堂大学大学院プロバイオティクス研究講座 特任教授
			※敬称略・五十音順 ※●はドクターによる出前セミナー事業の選考委員
	川野 清巳 株式会社ヤオコー 相談役	2023年6月15日現在	
	川野 澄人 株式会社ヤオコー 代表取締役社長		
	利根 忠博 株式会社埼玉りそな銀行 元会長・社長		
	村井 満 公益財団法人日本バドミントン協会 代表理事兼副会長 Jリーグ名誉会員 第5代チェアマン		
	高篠 包 高篠・柿沼法律事務所 弁護士		
	豊田 友康 株式会社メディバルホールディングス 監査役		
	※敬称略・順不同		



川野正登記念 公益財団法人

川野小児医学奨学財団

〒350-1124

埼玉県川越市新宿町 1-10-1

Tel: 049-247-1717

Fax: 049-246-7006

Mail: info@kawanozaidan.or.jp

Url: www.kawanozaidan.or.jp

FB: <https://fb.com/KawanoZaidan>

「Climb」というタイトルは、財団設立のきっかけとなった
正登(まさのり)さんの名前にちなんでつけられました。